



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.97

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション＝WJF）2017年12月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp

ホームページ <http://wjf4464.la.cocacn.jp>

発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

9月30日の特別例会シリーズ第3回(通算63回)の会場で思わぬサプライズがあった。一般社団法人「日本ジャズ音楽協会」(石井一会長、佐藤修理事長)から外山喜雄さんに「ジャズ大賞」が贈られたのだ。ルイ“サッチモ”アームストロングとジャズの原点、スイング感など世界中を熱狂させたサッチモのすべてを発信し続けてきた数少ない功労者の一人。もちろん内助の功の恵子さんの存在も忘れてはならない。目を潤ませる喜雄さん、感動の眼で見つめる恵子さん。そんな2人を讃えた石井さんは、賞状を手渡した後、会長と理事長からの金一封を夫妻に手渡した。その詳報(10面)と、これに続くニュースとしてこの会報97号では「会報100号への歩み」を取り上げた。まさにこのジャズ大賞を受けるにふさわしい20数年にわたる夫妻の業績がここでも掘り起こされていく。いまま「この素晴らしい世界」の波紋は広がっていく。(小泉良夫)



写真上は「ジャズ大賞」の賞状を手に微笑む外山夫妻。下段は(左から)佐藤修(日本ジャズ音楽協会)理事長。授賞説明とあいさつをする同協会会長、石井一さん。外山さんに賞状を贈る石井さん＝相馬威宣さん撮影

外山喜雄(発行人・代表)・恵子夫妻、山口義憲編集長に聞く 会報「ワンダフルワールド通信」100号記念への歩み 『ジャズ大賞』受賞にふさわしい外山さんの活動が浮き彫りに

WJF発足時(1994年7月)に生まれた会報「ワンダフルワールド通信」は、ほぼ春夏秋冬の季刊誌として発行を続け、来年秋には100号の記念号を迎える。その間、外山夫妻とWJFの動向はこの会報で可能な限り伝えられてきた。それらを振り返ってみると、まさに「ジャズ大賞」を受けるにふさわしい外山喜雄さんと彼を支えてきた恵子さんの献身的な活動がクローズアップされてくる。100号記念直前の「ジャズ大賞」受賞を機に第1号発行以来、愛情をこめて発行に取り組んでこられたお三方に会報の生い立ちと現在に至った歩みを語っていただいた。(外山邸にて、聞き手は編集担当、小泉良夫)

外山夫妻帰国後、大きな夢を語る サッチモに関することすべてを追究

「活動の発端は1969年、外山夫妻が帰国して間もなくのことでした」と山口さん。「千葉・浦安市のレストラン『とんかつ双葉』でとんかつとビールをいただきながらジャズの夢を語り合ったことでした。夫妻は、

ルイ・アームストロングにかかわることなら何から何まですべて、例えばコンサートなどでの演奏、ジャズフィルムの収集・公開、ジャズ文献の翻訳、出版、DJ、サッチモのエバンジェリストとしての役割、さらに夫妻を温かく

迎え入れてくれたジャズの故郷ニューオーリンズとアメリカへの恩返し、恵まれぬニューオーリンズの子供たちへの楽器プレゼント…それまで断片的だった夢が一つの形を作り出していったのです。それらを実現させていく第一歩が会報の発行であり、WJFの前身、ルイ・アームストロング・ファウンデーション・ジャパン(LAF)の発足だったのです」。

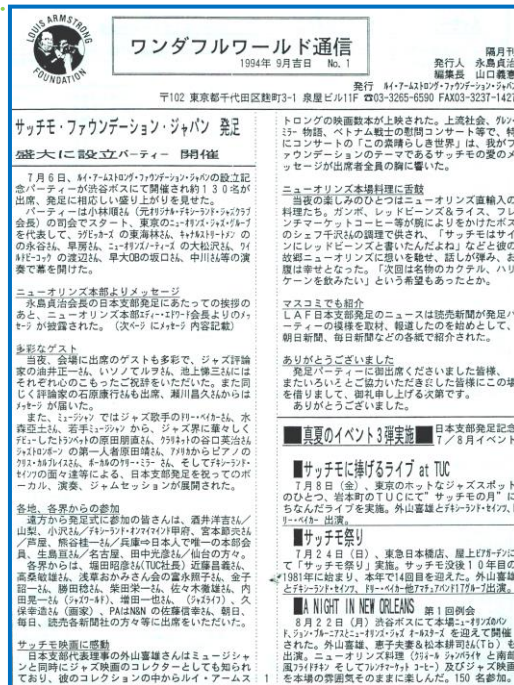
山口さんは、外山夫妻が所属していた早稲田ニューオーリンズ・ジャズ・クラブの後輩で、夫妻がニューオーリンズに出かけると後を追うように現地に出かけ、夫妻のアパートの上の階に潜り込んで約2週間滞在、夫妻とプリザベーションホールやチューレン大学のアーカイブに入り浸り、現地のジャズに関連するすべてを満喫している。「まるで夢のような青春の日々でした」と山口さん。夫妻の夢を実現させる一番の協力者、第1号でもある。



写真右から山口義憲さん、外山喜雄・恵子夫妻、小泉良夫

「1992年10月、ハロウィーンの日、米ルイジアナ州バトンルーージュで日本人の高校留学生、服部剛丈君が銃殺されたことも私たちに強い衝撃を与えました」と恵子さん。「小学校の入り口にも“銃の持ち込み禁止”と書かれた大きな標識が掲げられているほど、ニューオーリンズの子供たちは、麻薬と銃に囲まれて暮らしているのです。ルイ・アームストロングが少年のとき、拳銃を発射してつかまり少年院に送られていますよね。そこでトランペットを学び、偉大なジャズ奏者として育っていった。そんな先例も踏まえて、“銃に代えて楽器を！”というスローガンを立てて、会の運営の柱の一つにしていきました。それを伝えるのが会報の役割であると考えました」。第2号では早速、楽器のプレゼントが大きく掲げられている。

1994年9月に発刊した会報第1号(左上)はわずか4ページ。同年7月6日、LAF発足のニュースが伝えられている。会員数118人。賛同者には、日本を代表するジャズ評論家やジャズミュージシャンらが多数、名を連ねている。これらの皆さんが後述するように会報に登場、健筆もふるってくれることになる。



1994年9月に発刊した会報第1号(左上)はわずか4ページ。同年7月6日、LAF発足のニュースが伝えられている。会員数118人。賛同者には、日本を代表するジャズ評論家やジャズミュージシャンらが多数、名を連ねている。これらの皆さんが後述するように会報に登場、健筆もふるってくれることになる。

1994年9月に発刊した会報第1号(左上)はわずか4ページ。同年7月6日、LAF発足のニュースが伝えられている。会員数118人。賛同者には、日本を代表するジャズ評論家やジャズミュージシャンらが多数、名を連ねている。これらの皆さんが後述するように会報に登場、健筆もふるってくれることになる。

同年7月6日、LAF発足のニュースが伝えられている。会員数118人。賛同者には、日本を代表するジャズ評論家やジャズミュージシャンらが多数、名を連ねている。これらの皆さんが後述するように会報に登場、健筆もふるってくれることになる。

山口さんが会社のワープロで奮戦 4号からは網点をいれて写真も掲載

「会報第1号を出す前に、ガリ版でいろいろ作っていただいたのです。こういうを出すのが、これからの会の運営に役立つと考えていました」と山口さん。そして第1号へ。当時は今のようにパソコンによるDTP(デスクトップ・パブリッシング=卓上出版)など考えられなかった時代。いったいどうやって？

「ワープロで原稿を作ったんです。私が勤めていた会社(広告代理店)にオアシスがあって、それをそっと使って作りました」と山口さん。そう、当時ワープロは非常に高価な代物で、とても個人で買うことなどできなかった。かなり大きくて部屋一つを占領していたほど。山口さんの奮闘で第2号6ページ、3号は8ページと次第に充実した内容になっていく。

「各号でイラストはふんだんに入っていたのですが、4号からは写真も入れられるようになりました」と外山さん。ページを繰ってみると、なんとサッチモを囲んで野川香文、野口久光、池上悌三、青木啓といったそ

うたるメンバーが顔をそろえている。池上邸での写真には飯塚径世、油井正一、河野隆次ら諸氏の顔も(写真右上)。

5号では、藤岡靖洋さん(ジョン・コルトレーンの世界的研究者)がNYクイーンズ・カレッジにオープンした「ルイ・アームストロング資料館を訪れた探訪記」に添えて、マイケル・コグスウェル館長(現ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム館長)らとの記念写真や、いっソノでルヲさんとサッチモらの写真も。ここにはいっソノさん連載の「ルイ・アームストロングの思い出③」も掲載されている。この連載は15号まで13回にわたって続いた。外山さんの「サッチモ ちょっといい話」も始まる。池上さんの大原稿「アームストロングの音楽と其のレコード」(3ページ半も!)。最高の充実ぶりだ。

メディアも注目!楽器の贈呈も順調に進む グローバル管楽器技術学院が無償の協力

「このころ楽器の贈呈も進んでいるのです」と外山さん。「毎日新聞夕刊の社会面トップ記事や読売新聞の記事が

きっかけで、各地から使い古された楽器などが続々と集められてきました」。

「そのきっかけになったのが東京九段ライオンズ・クラブの室橋幸三郎さんをご尽力してくださった設立30周年記念としての100万円の贈呈でした(2, 3号に詳報)。さらにこの100万円は、サッチモとデキシーの大ファンでかつてプロのドラマーとしても活躍した鶴沢緑郎さん(当時、楽器

輸入商(株)グローバル勤務)と当時の同社長、福田忠道さんのご協力もあって、破格の条件でトランペット、トロンボーン、クラリネット各10本、アルトサックス3本、テナーサックス2本の計35本の新品楽器となってニューオリンズにわたり、子供たちへのクリスマス・プレゼントとなったのです(写真中央)」と外山さんは続ける。

「今はお三方とも故人となってしまいましたが、WJF会員でロクさんの愛称でも親しまれた鶴沢さんらは、各地から送られてきた中古の楽器を系列のグローバル管楽器技術学院で、す

べて無償で今日まで新品同様に修理してくださっているのです。福田さんらの御恩も忘れることができません」と恵子さん。これらの寄贈楽器はすでに850点超にもなってニューオリンズに送られている。これら送り主のお名前もすべて会報に掲載させていただいている。

「また、これらの寄贈楽器には

心を打たれるお手紙が添えられていることも多いんです」と恵子さん。たとえばこんなお

便り。「20年も前に弟が練習しておりました。弟もルイ・アームストロングのレコードを好んで聴いておりました」と京



全国各地から送られてきた楽器とともに、外山夫妻(手前)と日通ペリカン便のご担当者

都にお住まいのご婦人は亡き弟さんの形見のトランペットを寄付してくれた。「娘が高校時代にクラブ活動で吹いていました。かなり月日も経過して手入れもせずにおりましたので、厄介なものかもしれませんが…」と八王子のご夫妻。その娘さんが夫妻の初孫を出産した翌日、思い出も込めて「愛すべきサッチモおじさんのお孫さんに…」とクラリネットを1本送ってくれていた。「ジャズにあこがれサクソを買ったもののむずかしくて…」という若者、プロ級の楽器を購入した直後に逝去したという男性のアルトサクソは、奥様から寄贈され、愛用の楽器を流されたニューオリンズのプロ・ミュージシャンの手にわたって、最高の演奏をテレビ局で披露してくれた。

ジャズボーカル・グループ「タイムファイブ」のリーダー、勅使河原貞昭さんからトロンボーン4本、伝説のドラマー、故ジミー原田さん愛用のドラムセットなどもきらりと光るプレゼントだった。

「そこで忘れてはならないのが、これもすべて無償で長い間、ペリカン州として知られるルイジアナ州ニューオリンズに届けてくれていたのが日本通運の“ペリカン便”でした」と外山さん。「最初の35本は、クリスマスで超多忙にもかかわらず、女性ボーカリスト、ジョーン・シェパードさんの口利きもあって米ユナイテッド航空が無料で引き受けてくれたのです」。

**パソコンによるDTPで紙面作成が容易になる
紙質が向上し鮮明な写真で全ページカラーも**

パソコンによるDTPも簡単になり、前会報96号までにページ数は最大16ページに拡張。号外まで出せるようになった。題字やフォントも変えた。紙質も56号から上質になって、写真が鮮明に印刷され、全ページがカラーになった(60号=写真上)ことも特筆できる。

「ずっと編集を続けてきた私に代わって30号から50号まで編集の労を取っていただいていたのが友永麻里子さんでした」と山口さ



会場を埋め尽くした大観衆の前で演奏する「外山真樹とデクシー・セインツ」(2009年8月2日=ニューオリンズのルイジアナ州立博物館 Old U.S. Mint. "Red Beans & Ricely Yours Stage"にて)

ん。「51号は私が見よう見まねで…」と外山さん。

52号からは、この友永さんに代わって、これまで原稿や写真を投稿、載せていただいていた小泉がその重責を担うことになってしまった。当時、産経新聞社の電子編集室長や夕刊フジのホームページZAKZAK編集長などやっていたパソコンによるDTPにはかなり興味を持っていたこともあって、お引き受けしてしまった。

「友永麻里子さんはディズニーランドが大好きで、ご主人とともにTDLの園内で演奏していた私たちやジミー・スミスさんもいた“ロイヤル・ストリート6”の追っかけファンになっていました。そん

なご縁もあって2000年にキング・レコードからディズニー曲特集『デクシー・マジック・ビビディ・バビディ・ブー』のCD(写真下)を出したときなど、曲目解説のライナーも彼女が



担当してくださっているのです。このタイトルは友永さんのアイデアでした。本当に、あのころから、ビビディ・バビディ・ブーの魔法にかかったように、いろいろなことが起こって、いろいろなことが開けていきました」と

と外山さん。

**TOPを飾った「サッチモの旅」&「サッチモ祭」
外務大臣表彰、国家戦略室からの感謝状も**

初期以後の主な記事で特筆されることは、読売新聞記者の阪口忠義記者が早稲田大学第1文学部英文専攻の卒業論文に書いた「How“Jazz”was originated」が17、18、20号の3回にわたって掲載されたこと。原稿用紙165枚

の大作。阪口さんは読売記者時代にもWJFの活動をしっかりで見守ってくださっていた。

すでに始まっていた「サッチモ祭」や「サッチモの旅」も、しばしば1面TOPを飾っている。2003年には、ルイ・アームストロング・ハウ



スミュージアムの開館に当たって日本から120万円の寄

贈も大きく記載。2002年の34号では、藤岡さんがオープン直前の現地の模様を、2003年の開館式は会報38号でゲストとして招かれていた外山さんが写真家、小林洋さんのオープンアルバムを含めて6ページにわたって詳述してくれている。

長年の夢だったサッチモのお墓参りも実現した(写真右上)「サッチモの旅」



では2005年、巨大ハリケーン「カトリーナ」がニューオリンズを襲う直前、現地の日本総領事公邸での外山さんへの外務大臣表彰(45号=前ページ写真中央下段)を大きく取り上げている。2012年には国家戦略室から外山夫妻への「国境を越えた情熱を持って頑張る日本人」としての感謝状授与(75号)にも大きな紙面が割かれた。

ジャズの故郷を襲ったハリケーン「カトリーナ」 ニューオリンズは壊滅、友好関係も危うく…

なんとといっても会報での最大の話題は2005年8月23日、ニューオリンズを壊滅させた巨大ハリケーン「カトリーナ」の上陸。この打撃でこれまで築きあげてきたニューオリンズとの友好関係も危うくなっていった。当時、G.W.カーバー高校でバンドを育ててきたウィルバート・ローリンズ先生は失業、ニューオリンズでガイドや通訳などで奔走してくれていた美貴ローボックさんの自宅も被災し、家族はシカゴへ…みんなバラバラになった。

「この災害当時、私たちはロサンゼルスでのジャズ祭出演で渡米していたんですが、日本からの速報で緊急サッチモ祭の開催(写真右上)

などニューオリンズ支援企画を次々と打ち出すことができました」と外山夫妻。「この緊急サッチモ祭は、これまでサッチモ祭で毎年、会場を提供していただいていたサッポロビールの恵比寿麦酒記念館“銅釜広



場”で開催したんですけれど、このイベントの実現には当時サッポロビールの社長だった岩間辰志さん(故人)が大変ご尽力なさってくれています」と外山さん。

日本では初のニューオリンズ支援イベントとしてNHKはじめテレビ各局、新聞などマスコミも大挙取材に訪れてきた。「そんなこともあって寄金は1000万円を超え、楽器も多数集められました。後日、私たちがこれらすべてを直接ニューオリンズに持参しました」。

ハリケーン「カトリーナ」の大災害も小さく見えた 「東日本大震災」で超ド級の津波が日本を襲う

さらに今度は、このニューオリンズの被害も小さく見えるほど大災害が日本を襲う。2011年3月11日、超ド級の地震と津波が東北から千葉にかけて日本を襲ったのだ。各地で死者、行方不明者は2万人近くに上る大被害をもたらす。千葉・浦安市の外山邸も、液状化現象で自宅が“全壊”してしまった。…にもかかわらず、外山夫妻は、藤崎羊一さん、私(小泉)ともども被災地、気仙沼へ外山さんの車で急行(4月24日)、現地の復興支援コンサートに参加している(写真下段中央)。68号に詳報。

「今度は私たちが恩返しをする番ですと、ニューオリ

ンズでは、オー・ペリー・ウォーカーズ高校のブラスバンド指揮者に復帰していたローリンズ先生らが、いち早く支援コンサートを開いてくださったのです。それにライブハウスなどを運営しているティピティーナス財団が、津波で楽器などすべてを流されてしまった気仙沼

のジュニアジャズオーケストラ『スウィング・ドルフィンズ』に全楽器を補充してくれました。まだ700人超も非難されて

いる方々がいる気仙沼総合体育館前では、周辺各地から支援に集まったバンドやスウィング・ドルフィンズが出演していて、コンサートが体育館前で開かれるということだったので、

私たちも駆けつけました」と外山夫妻。

外山夫妻と藤崎さんも、スウィング・ドルフィンズに加わって演奏、ここにもテレビ各社がカメラの放列を作っていた。その会場でスウィング・ドルフィンズから外山夫妻にお礼の寄せ書きで埋められた大漁旗が手渡された。この大漁旗は後日、サッチモの旅で参加者ともどもティピティーナス財団に直接届けられている(写真上)。



浦安HUB、宇都宮、浦賀市などでも支援コンサートが開催され、外山夫妻はデキシシーセインツともども各地へ奔走する。多賀城市の子供ジャズバンド「ブライトキッズ」にもニューオリンズからの義援金で楽器が送られている。この楽器を送り届けた際、多賀城東小学校の入り口で恵子さんが転倒、なんと“黄金の右腕”を骨折してしまったこともあった。

その後、仙台の定禅寺ストリートジャズフェスティバルの支援コンサートにも参加。「仙台といえば、あの粋なジャズ・カフェバー『ジャズ・ミー・ブルースnola』のオーナー、佐々木孝夫さんさんのことも忘れられませんね。ジャズ人形を販売されて、その売り上げを何度も寄付してくれています。仙台でのイベントでは毎年、大変お世話になっているのです。会報にも頻繁に登場されています」と恵子さん。

日米の友好関係はさらに進み外山夫妻の夢は大きく膨らんでいく。大震災の際、「TOMODACHIイニシアティブ」で東北地方の復興に力を貸してくれていたアメリカ、その駐日大使、ジョン・V.ルースさんも外山夫妻の活躍に注目し、何度もツイッターに称賛のを送り続けていた。

2012年6月には、大使館に隣接する公邸でジャズパーティーが催され、秋吉敏子さんともども外山夫妻も招かれた。なんとこの会場は、終戦当時、天皇陛下とマッカーサーの会見の

場となったところ。ルース大使から外山夫妻に温かい声も

かけられた(写真下中央=72号)。

夫妻の夢は限りなく広がっていく。この年の10月、ティピティーナス財団と国際交流基金のご協力

でニューオリンズからヤングバンドが2組、名サクソ奏者ドナルド・ハリソン]r.率いる「ティピティーナス・インターンバンド」とローリンズ先生率いる「オー・ペリー・ウォーカーズ・チ

ューズンワンズ・プラスバンド」が来日したのだ。この2組は外山夫妻らと5日から10日まで成田～横浜～東京～仙台～石巻～気仙沼～仙台～東京～浅草～国際交流基金～サッチモ祭～グローバル管楽器技術学院～成田と廻り



大震災当時の駐日アメリカ大使、ジョン・V.ルースさん(右から2人目)と外山夫妻(左)

被災地などで多彩なイベントをこなしていった(74号=写真左)。気仙沼では、津波で陸地の押し上げられた漁船の前で追悼演奏も。

「いやあ、本当に夢がなかった素晴らしい年でした」と外山夫妻は当時、感激の面持ちで話してくれたが、夢はこれにとどまらなかった。2013年9月、今度はスウィング・ドルフィンズが憧れのニューオリンズに招かれ、サッチモ・サマーフェストになどに出演(次ページ写

真上)したのだ(78号)。まさに恵子さんがよく口にされる



「ネバー・エンディング・ストーリー」である。

82号では、2014年8月、サッチモの旅でニューオーリンズを訪れた際、「ジャズ博物館」(ルイジアナ州立博物館分館)の開館に向けて1万ドルを寄贈したことも詳報している。

この間、2013年4月、大阪で開催されたユネスコの「国際ジャズデー大阪」で外山夫妻は、デイプログラムの開催ファンファーレを演奏する榮譽を担った。榮譽といえば、2015年12月、あのクラシックの殿堂、紀尾井ホールで「ニューオーリンズ・ジャズと素晴らしいサッチモの世界」(写真下のチラシ)と銘打って初めてジャズが演奏されたこと(88号)、翌年末にも「ビッグバンドの時代～スウィングしなげりゃ意味ないね～」が盛大に開催されたこと(92号)も、特筆されるべきイベントだった。

2016年7月発行の90号は外山夫妻の「金婚式」特集ともいえる「夫婦でジャズ総決算の年=サッチモと私たちの50年」で横浜～長野～蓼科～御茶ノ水…そして再びニューオーリンズに渡った。この年の6月、サー・チャールズ・トンプソンさんが亡くなっている。

WJFは15周年、20周年を迎えていた。「この間、私たちが楽器を送った子供たちにも大きな出来事が起こっているのです。ブラスバンドTBCの旗手で、将来、ローリンズ先生の後継者にもなるのではないかと期待されていたブランドン・フランクリン君(享年22歳)が射殺されたり(63号=この年2010年はサッチモ祭30周年だった)、ヤングバンドの一員として来日した、なかでもとっても親しみを感じさせていた黒人少年が殺人罪で逮捕されたりしている。

「何より私たちをあっと驚かせ、大声を上げさせたのが、2012年2月、米ホワイトハウスのイーストルームで開催されたBlues from The White Houseでの一コマでした。当時のオバマ大統領が

マイクを手にブルースを歌っている背後に、なんとB.B.キングらと並んで、その中央に子供のころからずっと見守り、何度も楽器もプレゼントしてきたトロンボーン・ショーティー



が映し出されていた(写真下段)のです。YouTubeで確認すると、彼はトロンボーンを吹きながら大統領や客席の後

ろから登場、ステージに上り、歌も交えて「セント・ジェームズ病院」を演奏しているのです。しかも、私たちと同じバージョンで♪ハディ・ハディ・ハディ・ホーと歌い、大統領夫妻も唱和しているところがはっきりと映し出されていたんです」と外山さん。最高の思い出に残る一コマだった(76号)。

79号では恵子さんの初リーダーアルバム、Keiko's



New Orleans Spirit「世界は日の出を待っている」の録音風景も紹介した。年中行事も会報でしっかりフォローしてきた。デキシード・ジャズ・ジャンボリー(1月)、西銀座ジャズひな祭り(3月)、サッチモの旅(8月)、サッチモ祭(7、8月や10月)、クリスマス・パーティー(12月)、不定期の例会。それらのイベントを会報でのフォローしてきたこともさることながら、

WJFのイベントをことあるごとに取



り上げてくれたマスメディアにも触れなくてはならない。
ニューオーリンズの地元紙「タイムズ・ペキューン紙」のシーラ・ストロープ記者は、サッチモの旅で一行がニューオーリンズを訪れた時など、何度も心の琴線に触れる素敵な記事を大々的に取り上げ

てくれた。「これらの記事がきっかけともななって私たちの活動が地元ニューオリンズに蔓延して行ったのです。それに

あった。寄稿、談話、定期執筆などで会報をにぎわしてくれた

ジャパントイムズのケン・カワシマ記者は、2012年3月8日発行の紙面で1ページ全面を費やして『Torn apart by disaster, bound by jazz』(大災害で引き裂かれ、ジャズで結ばれた)の記事(写真右=72号)を掲載してれています。この英文こそが国際的な反響を呼び起こすきっかけになったともいえます。朝毎読、日経など各紙、地方紙各紙、スイングジャーナル誌(現ジャズジャパン誌)、ジャズワールド紙(内田晃一さん)、ジャズ批評も、かなりの頻度で取り上げて



『ジャパントイムズ』紙の1ページ全面を費やして掲載された外山夫妻と東北支援に関わる活動記事

くれて来ました」と外山夫妻。
「そういう小泉さんも、夕刊フジで1ページ全面を使った特集を20回以上も取り上げてくれて、私の『いま甦るサッチモ ルイ・アームストロング』という連載も12回にわたって掲載、ほかに事あるごとに私たちの活動を記事にしてくださいました。当時の編集局長から『もういいでしょう』とストップがかかったこともあったそうですね」と外山さん。いやあ恐縮ですと私。

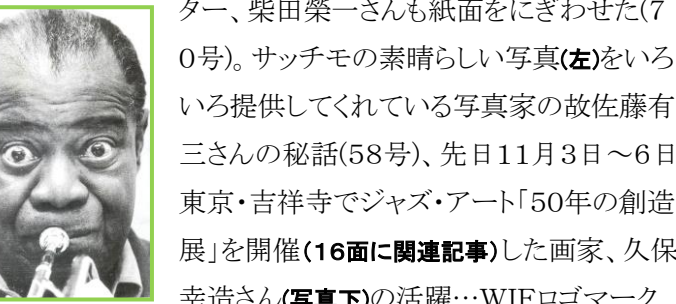
**例会は特別3回シリーズを加え計63回に
会報に執筆、花を添えてくれた多彩な方々**

不定期の例会は、先日の特別3回シリーズ(95,96号)を加えて計63回に達した。そんな例会やWJFの各イベントには「WJF女子会!?(恵子さん、粉川・廣津両夫人、相馬夫人、細川ハテミさん、奥村夫人、小泉富子ら)が出向いて支援。例会皆勤賞のシンガーズ・ライター、みなみらんぼうさんは、しばしば感想を述べられ、マスメディアにも投稿していただいたことも何回か



久保幸造さん=1995年

待されて出演している。これも随分掲載させていただいた。



に使わせていただいているサッチモの顔は久保さんの作品(写真下)。どれも忘れることができない。

浅草おかみさん会の富永照子さんは毎年ニューオリンズからオールスターバンドを浅草に招いて「ニューオリンズ・フェスティバル」を開催、すでに30回を超えており、毎回デキシーセインツも招待されて出演している。これも随分掲載させていただいた。



忘れえぬ外国の方々、サー・チャールズ・トンプソン、ジミー・スミス、ドリー・ベーカー、ジョージ・アバキアン、マイク・レズニコフ、ヘレン・メルル、ダン・モーガンスターン、ドン・マルキ、マイケル・コグスウェル、リッキー・リカルディー、ベン・ジャッフェ、シーラ・ストラウブ…いやあもうとても書ききれません。なかでもサッチモの旅で毎年のようにお会いしていたジョージ・アバキアンさん(写真上)は、11月22日、ニューヨークでお亡くなりになったというニュースが外山さんから届けられた。98歳だった。63号に91歳の誕生パーティー詳細。

そう、「サッチモ祭」に話を戻しましょう。「2014年の10月で34回を迎えたのを最後に今は中断されています。第1回はWJFの発足よりずっと古く1981年、東京駅の大丸屋上ビアガーデンでスタートしています。サッチモ祭でも熱演してくれていた大丸リユニオン・ジャズメンのリーダー、肥後崎英二さんのご尽力で会場が借りられ、サッチモ没後10年の記念すべき年に「ニューオリンズ・ジャズ祭」として始まったのです(83号)。もちろんデキシー・セイントも出演しています。その後、日本橋東急にも、数年お世話になり、その後、サッポロビールのエビスビール記念館に移って15年にもなっているんです。でも、これらにお力添えいただいていたサッポロビールの元社長の岩間辰志さんが2015年11月に、今年6月には肥後崎さんが亡くなっているんです」と外山夫妻は感慨深げに話す。

**年末号には毎年、Excelで巧みに会員名簿掲載
パソコンの達人、事務局の細川ハテミさんが作成**

外山夫妻のサッチモ・エバンジェリストとしての活動の中で外山さんが秘蔵しているジャズフィルムの公開とか、翻訳、出版も滞りなく進められてきた。「独断と偏見のジャズ史」(オーティツ・M・ウォールトン著、外山喜雄訳、1976年)に始まり、「聖者が町にやってくる」(外山喜雄著、1982年)、「ニューオリンズ行進曲」(外山喜雄・恵子共著、2002年)、「聖地ニューオリンズ、聖者ルイ・アームストロング」(外山喜雄・恵子共著、2008年)があり、56号では、この

出版記念パーティーの様子が報じられている。

さて、今号にも掲載しているWJFの会員名簿、毎年年末号に掲載しているのですが、このExcelによる名簿作りは“パソコンの達人”、事務局の細川ハテミさんが担当されている。恵子さんは、クリアファイルのバインダーにメモやらチラシやらすべての資料をびっしり収めていて、これをめくりながら補足してくれた。118人の会員でスタートして、11月現在(賛助会員62人、一般会員148人)210人。発足以来の会員さんもあり、延べ580人にもなるという。



恵子さんと岩間さん(右)

いよいよ最後は印刷に回ります。印刷会社は外山邸から3、4分のところにあるUPS(アップス=浦安プリンティング・サービス、関喜和社長)。「印刷をお願いしたのは1997年11月の14号からで、1ページ目は第8回例会「デューク・エリントン特集」。



大丸リユニオン・ジャズメンのリーダーとして活躍した故肥後崎英二さん(前列左端のコルネット奏者)

印刷した原稿に網点をかけた写真を張り付けていました。そのうちDTPの版下で組み込めるようになったのです。現在はWordで作った原稿をCDに入れて入稿しています」と外山さん。「関さんは、WJFの活動を初期から私たちの活動をご存じの心強い支援者でもあるのです。会報の印刷をお願いしているうちに私たちのよき理解者ともなって活動に賛同、2001年からは賛助会員にもなって、この会の活動を浦安でずっと見続けてくださっているのです」

会報の発行部数は、一番多いところで1300~1500部(DMが900近くもある)、サッチモ祭などコンサートがあるときなどは、4000から5000部も刷ったことがあった。

まだまだ特筆すべき方々、ニュース、イベントは山積しているが、とても書ききれません。100号の記念号を迎える来年秋は、WJFがどう展開されていくか、外山夫妻の活躍ともども、お楽しみは一杯です。

(小泉良夫)

石井一会長から愛情のこもった授賞の“前置き”ご挨拶 将来につながる“登竜門”としての「ジャズ大賞」 オーソリティーにしっかり「ゲタをはかせた」とユーモアも交えて熱弁

9月30日の特別例会シリーズ第3回(通算63回)の会場で思わぬサプライズがあった。

司会の山口義憲さんから外山喜雄さんが一般社団法人日本ジャズ音楽協会から「ジャズ大賞」が贈られたことが会場に伝えられ、万雷の拍手を受ける。山口さんの招きで石井一同協会会長がステージに上がる。

はじめに一言「これは曰くつきの良い賞なんですよ」と石井さんは断言して続ける。

「この『ジャズ大賞』は、これが最後ではなくて、登竜門なんです。これからどんどん大きい賞を取れるようになりますから…」と。外山さんにはまだまだ先があるということなのでしよう。

「これまで私以外にジャズの世話をする人がいなかったせいか、ここ20年、ほとんどジャズに賞が与えられていないんです。内閣府が審査するんですが、ジャズにはいろいろな楽器もあるし、ボーカルや、作曲、編集、雑

誌等々もある。誰が何をしているのかわからないんです」



「普通、技芸の分野には、それぞれの団体があって、謡曲なら謡曲、宮大工もあります。京都の三味線や舞踊にもあります。その団体

からそれぞれ毎年、毎年、推薦のリストが上がってくるのです」

「ところがジャズはソロを勝手に演奏しているように、みんな勝手気ままなんです。自分が一番うまいと思っている。他の人には文句をつけるんです。それで私は文化庁と相当ガンガンやりましてね。その結果、では、ジャズの分野で優れた人を

推薦せよ、ということになりました」

「そこで、まず一番大きい賞に『ジャズ大賞』という名前を付けました。それからもう一つ『日本ジャズ音楽協会会長賞』、私が協会会長なったんです

が…(笑い)。それで内閣官房長官をはじめ、文部科学大臣、文化庁長官…それぞれのところへ行きまして、しかも私一人では力不足



賞状を手に挨拶する石井一会長(左)



佐藤修理事長

なので、この人、協会の理事長になっていた
だいてる佐藤修さんにも一緒に来ていた
だきました。それでこれらのオーソリティーに
我々が賞を出したからには面倒を見ろよと、
ま、我々の言葉ではゲタ
をはかせたわけです。ジャ
ズはこのゲタをはいて
いなかったわけですから、政府としては取り上げ
ようがなかったんです。だから私がゲタをはかせて
やる、日本ジャズ音楽協
会が責任をもってやると
言ったんです。スタートとしてまず、最初に外
山喜雄さんにこの『ジャズ大賞』を差し上げる
ことにしました」

「どんどん乱発するわけではありませんが、
これを皮切りにみなさんが認められる方を表
彰していきたい。この人がこの登竜門に戻っ
てきたら、政府も面倒を見てくださいよと…。
日本にはいろいろな勲章・褒章があるのです。
この制度というのは、もう150年も続いている。
でも、こういった賞(ジャズ大賞)を持っていな
いと、こうした栄典制度には名前が挙がって

こないんです」

ここで石井さんは後ろに控えていた恵子さ
んに向き直って「また、またこの人がすごいん
です。この賞(ジャズ大賞)をこの人にあげた

くらい」と(写真左)。恐縮
する外山夫妻。

「叙勲の勲記(勲章とと
もに与えられる証書)を読
み上げるときなど、横に
立っておられる奥様が、
涙を流すんです。ま、半
分は奥様の力によってそ
の人の人生を全うするの

ですが、外山さんの場合は、半分以上は奥
様がやってますよ。ミュージシャンたちの頑
張りを応援する意味で佐藤さんと相談してお
金を出してこの会を発足させた訳です。で、
この賞を出して、ゲタをはかせて、次に褒章
と叙勲…。前置きはこのぐらいにして…」(長
い前置きで会場の笑いを誘い) 石井さんが
「ジャズ大賞」の賞状を読み上げ(以下全文)、
感動的な授賞式を閉じる。

この模様は、ジャズジャパン、ジャズワール
ド、新聞「赤旗」にも報じられた。



ジャズ大賞

日本ルイ・アームストロング協会会長

外山喜雄殿

あなたは長年にわたるトラッドジャズの演奏ならびに日本ルイ・アームストロング
協会会長としての「銃に代えて楽器を！」活動により日米青少年のジャズ交流に大
いに寄与されました

サッチモの「ワンダフルワールド」の世界を体現しジャズの愛の精神を伝導した
功績を讃えここに賞状を授与してこれを賞します

二〇一七年九月三十日

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

会長 石井 一
理事長 佐藤 修



Members of J.A.T.P. led by Norman Grants

posing for commemorative photograph at the arrival 1953 November 2 noon Haneda Airport , PAA flight Roy Eldridge(tp) 42 years old, JC Heard(dr) 35, Charlie Shavers(tp) 36, Willie Smith(as) 44, Benny Carter(as) 46, Ella Fitzgerald(vo) 35,

George Kawaguchi(ds) 26, Hachidai Nakamura(p) 22, Mitsuru Ono(b) 24, Toshio Oida(vo) 28, Chiemi Eri(vo) 16, Hidehiko Matsumoto(ts) 27,

Hajime Ishii 18, Norman Grants(producer) 35, Yoshiko Niikura(vo) Flip Phillips(ts) 38, Gene Krupa(ds) 44, Oscar Peterson(p) 28, Bill Harris(tb) 36 ,

Hiroji Ishii (Mr. Hajime Ishii' s father, president Nippon Mercury Record) 47, Herb Ellis (g) 33, Ray brown (b) 26, Ben Webster(ts) 44

Photograph owned and presented by Mr. Osamu Sato (Former Executive of Victor Ongaku Sangyo, Former President of BMG Victor, and Pony Canyon)

＜石井一さんとジャズ＞

(WJF会報「ワンダフルワールド通信、82号から、外山喜雄記」)

石井一さんといえば、1969年初当選以来政界で活躍、国土庁長官、自治大臣、国家公安委員会委員長を務めるなど、豪快な政治家として知られている。石井さんのお父様、石井廣治さんは、日本マーキュリーの社長として1953年、不滅のジャズグループJATPを日本へ招聘し(写真上)、日本にジャズブームをもたらした立役者。終戦後8年の日本で、廣治さんが全国から集めた当時珍しかったオープンカー20台を連れ、エラ・フィッツジェラルド、ジーン・クルーパー、ベン・ウェブスタ

ー…そうそうたるジャズメンの乗る車列の先頭に石井一さん運転の車。お父様の廣治さんとJATPの創設者、ノーマン・グランツが乗り、高速もない時代、銀座まで2時間のパレードだったが、沿道は人であふれたという。

ご自身もかつてテナーサクソスを吹き、大のジャズファンの石井さんが、日本音楽家協会会長をされていたのもそういうJATP、“ホットな”ジャズ、そしてお父様への思い入れから。今回(2014年)、以前から私たちの熱い“ホットな”ジャズ・ツアーに注目されていた石

井さん、ジャズへの情熱冷めやらず、また、これも“ホットな”ニューオリンズを一度体験したいと、単身ツアーにご参加くださった。

“超ホットな”サッチモ・サマーフェストのセインツのステージ、石井さんは、ステージに顎を乗せるようにして、立ち見で応援してくだ

さり、「現地のバンドのパワーに君たちは大丈夫かなと心配したが、一番受けていた！」と嬉しいコメント！この思い出の写真を、NYハーレムのジャズミュージアムに寄贈するという、石井さんにとってのジャズ心の旅を体験していただくことが出来た。

外山喜雄・恵子初めてのニューオリンズから50年 外山喜雄 第1回「ジャズ大賞」受賞記念コンサート 外山喜雄とデキシーセインツ結成43年 まとめてお祝いするコンサート

前号でもお知らせのとおり、日本レイ・アームストロング協会会長、外山喜雄さんが一般社団法人「日本ジャズ音楽協会」(石井一会長)から第1回「ジャズ大賞」を受ける荣誉に浴しました。

50年間レイ・アームストロングとニューオリンズの音楽を恵子夫人と二人三脚で追求し、「銃に代えて楽器を！」の合言葉でニューオリンズに楽器をプレゼント。同市のハリケーン被災には、日本から支援の手を差し伸べ、その後起こった東日本大震災では、ニューオリンズからの“恩返し楽器”で被災地の子供バンドが復活、日米の子供たちの相互訪問とジャズ交流を実現させるなど「サッチモのワンダフルワールド」の世界を実現させました。「ジャズ大賞」受賞は、そんな活動を評価されてたものでした。

夫妻を長い間応援してくださっているファンの皆様、ジャズ界、各界の皆様へWJFからも心からの感謝申し上げますとともに、何にもまして一緒にジャズを演奏してきた夫妻との長年の仲間、セインツのメンバー各位にも感謝の意を表し、来年2月、銀座ヤマハホールで「外山喜雄とデキシーセインツの素敵な仲間たち」と題するコンサートを企画しました。

また、2018年は外山夫妻が初めてのニューオリンズの地を踏んでから50年、さらに外山喜雄とデキシーセインツ結成43周年にも当たり、こんな色々なことをまとめてお祝いするコンサートとなりました。夫妻との演奏と活動を共にしてきた素敵な仲間たちの演奏、そして特別ゲスト

の皆さんの演奏もお楽しみ下さい。ぜひ皆様のご参加をお願い申し上げます。

主催:ジャズ大賞受賞をお祝いする会

共催:日本レイ・アームストロング協会

協力:ジャズ・ジャパン、ジャズワールド、ジャズ批評

日時:2月10日(土) 午後2時開演(1時30分開場)

場所:銀座ヤマハホール

特別ゲスト:前田憲男(ピアノ)、水森亜土(イラストレーター、ジャズ歌手)

司会:露木茂、山口義憲(ワンダフルワールド通信編集長)

友情出演:竹山洋(作家、脚本家、セインツ初代ベーシスト)

早稲田大学ニューオリンズ・ジャズクラブの若者たち

デキシーセインツの素

敵な仲間達: 川川忠範(tb)、広津誠(cl)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)、木村おうじ純士(ds)

特別出演: 鈴木孝二(cl)、後藤雅広(cl)、松本耕司(tb)

会費:5000円(WJF会員4500円)

(15面に発起人名簿)



日本イ・アームストロング協会 会員名簿 <2017年11月15日現在>

☆ 賛助会員

No	氏名	住所
1	荒井 潔	横浜市
2	荒井正雄	西東京市
3	新居 誠	藤沢市
4	安藤脩二	逗子市
5	岩嶋東也	世田谷区
6	上田一生	三重県名張市
7	上田訓男	新宿区
8	上田三千子	新宿区
9	大崎亮三	世田谷区
10	太田忠興	世田谷区
11	大津正一	四日市市
12	大西秀允	流山市
13	大西正則	座間市
14	大和田浩	横浜市
15	大和田守	新宿区
16	奥山康夫	佐倉市
17	折橋 健	北区
18	加藤 元	渋谷区
19	北沢元朗	港区
20	倉田 学	名古屋市
21	劔持 叡	船橋市
22	小林永治	中央区
23	坂元洋美	神戸市
24	佐藤 修	町田市
25	柴田昌男	宇都宮市
26	菅野満雄	足立区
27	鈴木アチ子	横浜市
28	須藤靖夫	多摩市
29	関 喜和	浦安市
30	相馬浩子	北区
31	多賀弘明	台東区
32	高木康有	さいたま市
33	高野 孟	鴨川市
34	武田 徹	長野市
35	田中光彦	仙台市
36	千葉英子	新宿区
37	土井田泰	広島市
38	富永照子	台東区
39	外山喜雄	浦安市
40	外山恵子	浦安市
41	内藤寿昭	世田谷区
42	長島国次	大田区
43	永谷正嗣	新宿区
44	中村 宏	所沢市
45	中村義孝	岩手県下閉伊郡
46	中村喜世子	岩手県下閉伊郡
47	中村重昭	船橋市
48	南湖征二	船橋市
49	新山 敏	新宿区
50	深町興光	北九州市

No	氏名	住所
51	富生安昭	杉並区
52	増山律子	宇都宮市
53	松居克彦	平塚市
54	松村善一	千代田区
55	松村世枝	千代田区
56	松本隆一	練馬区
57	宮原 明	府中市
58	室橋洋子	千代田区
59	森 忠彦	港区
60	柳 満	台東区
61	横田昭夫	大田区
62	若林千鶴	大阪市

☆ 一般会員

No	氏名	住所
1	Tim Ashida	台東区
2	浅井貞彦	千葉市
3	荒井京子	西東京市
4	飯窪敏彦	杉並区
5	石井 修	品川区
6	石原規子	江戸川区
7	磯野博子	目黒区
8	稲林昌二	上尾市
9	井上南都子	川崎市
10	岩崎明彦	渋谷区
11	宇田川允敏	杉並区
12	遠藤春吉	八王子市
13	遠藤泰弘	武蔵野市
14	大島 寛	柏市
15	大塚浩二	小金井市
16	大野 守	板橋区
17	大庭和雄	さいたま市
18	大島廣起	渋谷区
19	大平和夫	杉並区
20	大森節夫	新宿区
21	岡島昭道	横浜市
22	岡持登美夫	さいたま市
23	荻原和幸	世田谷区
24	奥川 清	京都市
25	奥村清文	川崎市
26	奥村久美子	川崎市
27	奥山庸子	世田谷区
28	小熊良雄	三鷹市
29	小野 宏	浦安市
30	柿崎拓哉	横浜市
31	加藤 脩	板橋区
32	加藤 容	世田谷区
33	金子征一郎	豊島区
34	鎌田政稔	川崎市
35	鎌田義雄	河内長野市

No	氏名	住所
36	神沢節子	埼玉県北本市
37	神谷芳憲	世田谷区
38	嶋下禎二	調布市
39	川上 隆	藤沢市
40	川口常仁	清瀬市
41	河原田 昌實	横浜市
42	北浦康司	川崎市
43	儀間 進	東村山市
44	木村陽一	芦屋市
45	木村純士	芦屋市
46	久保幸造	愛媛県西予市
47	久保井かおる	横浜市
48	久保田隆志	福岡県京都郡
49	蔵菌剛毅	所沢市
50	倉持皓子	市川市
51	栗山定幸	逗子市
52	小浅邦子	品川区
53	小泉良夫	荒川区
54	河野文男	川崎市
55	河本健一	西宮市
56	小暮弘道	新座市
57	小長井浩	さいたま市
58	小林正一	宇都宮市
59	小松多香子	小平市
60	後屋敷敏治	杉並区
61	西條光昭	富士宮市
62	笹木秀治	横浜市
63	佐宗雅幸	小田原市
64	佐藤 節	宇都宮市
65	佐藤美智子	町田市
66	四方邦晴	相模原市
67	島田政昭	新座市
68	清水正一郎	杉並区
69	鈴木和子	所沢市
70	鈴木鐵雄	松戸市
71	鈴木陸夫	港区
72	住友貞彦	船橋市
73	瀬川昌久	新宿区
74	関口美夫	栃木県下野市
75	相馬威宣	北区
76	高木宏斉	芦屋市
77	高田浩一	西宮市
78	高橋正雄	堺市
79	田代 実	横浜市
80	巽 洋二	四街道市
81	谷口勇介	佐賀市
82	田村昭三	目黒区
83	千葉友子	浦安市
84	塚原義晴	市川市
85	辻田あきら	浦安市

No	氏名	住所
86	寺島邦夫	世田谷区
87	寺村隆子	茨木市
88	戸田正樹	富山県滑川市
89	外山弘光	横浜市
90	豊島峯生	小山市
91	直江寧和	中野区
92	永井 元	文京区
93	永井宣一	板橋区
94	中嶋紀美子	港区
95	中谷秀樹	埼玉県狭山市
96	中林宗司	練馬区
97	中村美代子	所沢市
98	那波幸子	川崎市
99	鍋本ゆり	小平市
100	鳴川哲夫	杉並区
101	成瀬哲郎	福生市
102	西 恒雄	武蔵野市
103	西口泰司	中野区
104	西谷晃男	茨城県牛久市
105	西部曠介	市川市
106	野口勇二	市川市

No	氏名	住所
107	長谷部広行	世田谷区
108	畑田延浩	神戸市
109	島山直子	渋谷区
110	濱田素明	宇部市
111	原野精司	横浜市
112	樋口加鶴夫	江戸川区
113	飛田利勝	千葉市
114	福田 等	埼玉県加須市
115	福元希高	杉並区
116	藤原宏史	宇都宮市
117	古川 博	京都市
118	古澤 隆	鎌倉市
119	古藪 隆	国分寺市
120	星野正典	足立区
121	本多幸治	富士見市
122	本間保代	さいたま市
123	真崎晃郎	浦安市
124	正木日出男	鎌ヶ谷市
125	増井直治	横浜市
126	三賢龍子	浦安市
127	水越有造	川崎市

No	氏名	住所
128	三井洋一郎	横浜市
129	宮城 健	練馬区
130	三好弘二	愛媛県伊予郡
131	村上逸桜	練馬区
132	森 健吉	墨田区
133	森田育弘	北区
134	安田実男	福岡県古賀市
135	安間孝信	横浜市
136	柳澤安信	松戸市
137	柳原ちか雄	新潟県三条市
138	山口良夫	兵庫県加西市
139	山口真一	さいたま市
140	山下剛三	横浜市
141	山本俊兵	東大和市
142	横内知子	世田谷区
143	吉田 博	大和市
144	吉本悠久	杉並区
145	鷺見英明	静岡県田方郡
146	渡部一勝	目黒区
147	渡辺研介	調布市
148	渡辺理明	船橋市

会長：外山 喜雄 理事：奥村 清文、小泉 良夫、山口 義憲、外山 恵子
 会計：横田 昭夫 事務局：細川ハテミ
 スタッフ：渡辺 研介、小泉 富子、相馬 威宣、相馬 浩子、奥村久美子

2017年度 ジャズ大賞・会長賞

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会(会長:石井一、理事長:佐藤修)によると、2017年度「ジャズ大賞」と「会長賞」の授賞者が次の通り、決定されました。

この会報ですすでにご紹介させていただいている、外山喜雄さん(1面に掲載)と丸山繁雄さん(16面に掲載)のほかの方々はこの通りです。

<ジャズ大賞>

阿川泰子さん(ボーカリスト=写真右の右)、森寿男さん(ブルーコーツオーケストラ・リーダー=写真下)、秋満義孝さん(ピアニスト=写真右上の左)



佐藤理事長から賞状を受ける森さん



(写真はいずれもネットから)

<会長賞>

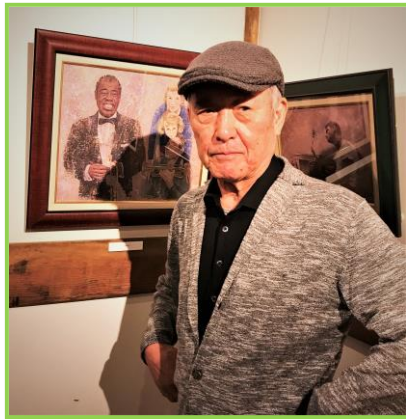
猪俣猛さん(ドラマー=写真下の上段)、KKB 後期高齢者バンドの五十嵐明要さん(アルトサクソ)、原田忠幸さん(バリトンサクソ)、杉原 淳さん(テナーサクソ)=写真右下のお三方、松坂妃呂子さん(予定ジャズ批評誌社主=写真下中央)



KKB 後期高齢者バンドの五十嵐明要さん(アルトサクソ)、原田忠幸さん(バリトンサクソ)、杉原 淳さん(テナーサクソ)

JAZZ ARTの久保幸造さんが東京で個展 「50年の創造」—外山夫妻とも久々の再会

8面でも、ちよっぴり触れさせていただいたJAZZ ARTの最高峰ともいえる画家、久保幸造さんが11月3日～6日、東京・吉祥寺のGALLERY KAIで「50年の創造」と銘打った個展を開催、30点余りの秀作を展示した。



期間中、外山夫妻をはじめ私（小泉）、WJFの関係各氏も出向いて久々の再会と作品の鑑賞を楽しんだ。画廊の入り口には外山夫妻からの素敵な花飾りも置かれていた(写真右)。

久保さんは病気がちだったと聞いていましたが、来場者にお元気そうな笑顔も見せておられたので、まずはひと安心。



異色のジャズ・ボーカリスト、丸山繁雄さん 「日本ジャズ音楽協会会長賞」を受賞!

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会(石井一会长)は、外山喜雄さんへの「ジャズ大賞」に次いで、このほど日本のジャズ界を代表する異色のモダンジャズ・ボーカリスト、丸山繁雄さん(写真右上)に「日本ジャズ音楽協会会長賞」を授与した。

丸山さんは2010年2月、銀座十字屋ホールで開催されたWJF特別例会「スカット誕生90周年記念『春のシビドゥバ』」に特別出演し熱唱している。

万感胸に迫るものがあります。(山)

ジャズ大賞「受賞。賞状には、「外山喜雄殿」とありましたが(トップページ写真参照)、日本ジャズ音楽協会の石井一会长は 今回の受賞は、半分以上、奥様・恵子さんの功績です」と表彰式の挨拶で述べられました ▼お二人の半世紀余のジャズへの取り組み、20年を越すWJFの活動は、今号の会報100号への歩みで特集されています ▼「銃に代えて楽器を！」のスローガンのもと、ニューオリンズのサッチモの孫たちに楽器をプレゼントする活動は、楽器の寄贈、修理、現地への配送など沢山の方々の善意に支えられてきました ▼2005年にニューオリンズを襲ったハリケーン被害では、緊急チャリティコンサートを開催し、ニューオリンズ支援活動を展開しました ▼2011年の東北大地震には、ニューオリンズから楽器の支援が寄せられ、その後、ニューオリンズの高校生バンドの来日と被災地訪問、翌年には、気仙沼のスウィング・ドルフィンズがニューオリンズのサッチモフェスティバルに招待され、寄贈された楽器を携えて現地で演奏を行いました ▼サッチモの音楽と愛のメッセージを伝えて半世紀、今回の受賞は

編集長から

ジャズで博士論文を書いたという「ジャズ博士」でもあり。日本大学芸術学部で教鞭もとっている。特別例会当日はカウント・ベーシーの「シャイニー・ストッキング」の熱唱に次いで、セロニアス・モンクの「ストレート・ノー・チェイサー」(水はいらないストレートでくれ)で聴衆を酔わせた。



歌い終わった後、スカット論やスカットとインプロ

ビゼーション(即興演奏)の違いについてのユーモラスな“特別講義”まで披露してくれた。

受賞、おめでとうございます!!!

募集中

♪ジャズを愛する皆様
どうか会員になって下さい!!
また皆様のお知り合いの方々に
ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

=WJF年会費=

一般会員(General Membership)	¥6,000
学生会員(Student Membership)	¥3,000
賛助会員(Friends of Louis Armstrong)	¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通:5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax: 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Googleで

<検索>ルイ・アームストロング

<http://wjf4464.la.coccan.jp>